

# 当院における問題点

1. **医師不足、常勤医師の高齢化** ▶ 医師確保対策: 奨学生医師、地域枠医師
2. **地域医療の維持は必須** (旧 江刺市の唯一の地域病院)  
高齢化 施設多し 急性期病院からの受け入れ さらに在宅医療
3. **施設老朽化** → 2023年で **築44年目**  
環境整備の必要性
4. **人口減少** → **患者減少** ▶ 地域医療構想を踏まえた医療計画 参画
5. **応援体制**  
岩手医大、胆沢病院、金ヶ崎診療所、北上済生会病院、開業医、その他病院からの  
外来診療応援、当直応援

常勤医の確保

働き方改革

# 院内火災

# 3月13日

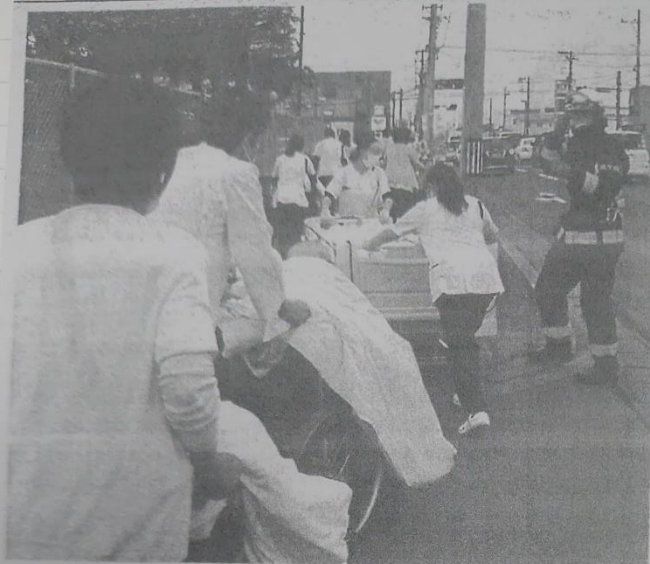
## 県立江刺病院で火災

### 奥州患者ら避難、転院も

術止  
手当面休

13日午前9時5分ごろ、奥州市江刺西大通りの県立江刺病院（川村秀司院長、133床）の火災報知器が作動した。2階空調機械室

から通常通り行つたが、手術は当面休止する。奥州署が出火原因を調べている。同病院や消防などによると午前8時半ごろ、隣接する手術室の異常を知らせる通知を受け、駆け付けた職員が焦げ臭いことを確認。火元を探し、空調機械室から煙が出てくるのを見つけた。確認中に火災報知器が作動し、放送で全館避難を呼びかけた。



県立江刺病院から奥州市江刺総合支所へ入院患者を避難させる医療スタッフら＝13日午前9時46分

入院患者59人はベッドや車いすで医療スタッフらが運び、市江刺総合支所へ避難。県立胆沢病院の災害派遣チーム(DMAT)が消防と連携し、搬送先を手配した。転院した9人以外は安全確認後に病院内へ戻った。

13日は外来を休診した。14日以降は予定していた手術室に煙が充満していたことから手術室を閉鎖した。隣接する空調機械室にも煙を確認した。

3/4 13日

## 江刺病院で火災

### 奥州入院、透析患者ら避難

13日午前8時27分ごろ、奥州市江刺西大通りの県立江刺病院（川村秀司院長）の空調機械室のダクトから出火。入院患者59人や透析患者9人、職員らが全員退避した。3時間45分余り後の午後0時12分に鎮火した。けが人や具合が悪くなった人などはいなかった。

手術室に煙が充満していたことから手術室を閉鎖した。隣接する空調機械室にも煙を確認した。

使用。このうち同支所には49人が収容された。さらに協力要請を受けて駆け付けた県立胆沢病院DMATは、同支所で患者の状況を見ながら転院先への手配、搬送を指示。患者のうち5人を胆沢病院に、3人を総合水沢病院に搬送した。同消防組合の救急車だけでは不足することから一関市消防本部の協力を受けた。

同日午前8時27分ごろ、同病院の監視端末でアラームが鳴り、病院スタッフが病院内を巡回。2階にある手術室に煙が充満していたことから手術室を閉鎖した。隣接する空調機械室にも煙を確認した。

午前9時5分ごろに自動火災警報器が鳴り、同病院は院内全員退避を決め、職員らが患者を誘導、介助するとともに必要な機材や物品を運び出し、いったん病院前の駐車場に避難。診察開始直後だった外来患者については帰宅してもらったという。

その後、1次避難所として市の協力を得て市役所江刺総合支所を

鎮火後、病棟の使用が可能となったことからストレッチャーや車椅子、スタッフによる介助で一部の患者が戻った。川村院長は「大事に至らず、スタッフががんばりと行動してくれた。また行政機関や医療機関の協力を頂けた」と話した。

同日午前8時27分ごろ、同病院の監視端末でアラームが鳴り、病院スタッフが病院内を巡回。2階にある手術室に煙が充満していたことから手術室を閉鎖した。



江刺病院で発生した火災で、避難する患者とスタッフ



# 奨学金医師最多145人

奨学金養成医師の2023年度の保健医療圏別配置予定数(4月1日見込み)



## 県北・沿岸4人増

### 県内公的病院 23年度配置見通し

県内の公的病院に2023年度配置される県関係の奨学金養成医師が、145人になる見通しとなった。前年度実績より23人多く、配置の始まった16年度以降最多。医師不足が深刻な県北・沿岸も前年度比4人増の58人となる。配置義務が

終了する医師が今後増えることから、医療関係者はキャリア形成の環境確保へ柔軟な運用を求める。8日に県庁で開かれた地域医療対策協議会(会長・小川彰岩手医大理事長)で出席委員19人が承認した。県によると、4月1日



## 盛岡南高

盛岡南高と不来万高の統合に向けた検討委員会(委員長・清川義彦不來万高校長)は8日、矢巾町内で会合を開き、新校名案を「南昌みらい」と決めた。検討委推薦の4案から県教委が絞り込み、同日決定。2025年4月の開校に

「南昌みらい」  
統合検討委

# 令和5年2月9日

## 奨学金医師、地域枠医師

**地域病院勤務  
1~2年**

## 常勤医は固定

## 高齢化

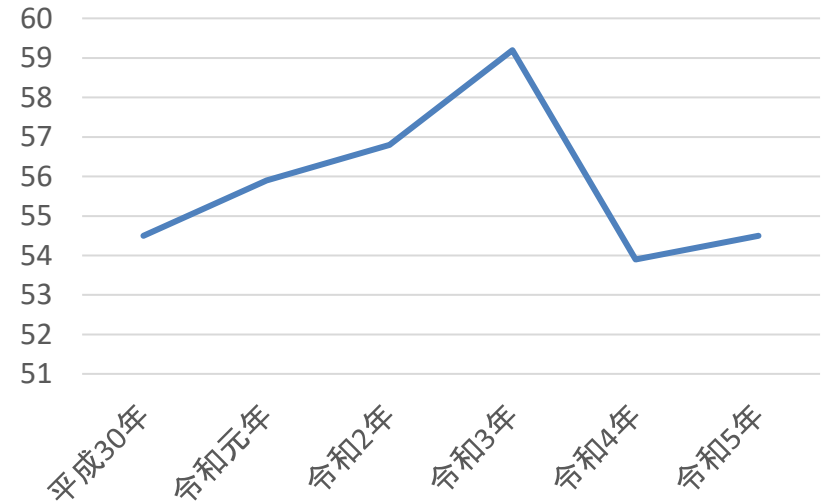
人増、釜石14人(同3人増)、宮古10人(同3人増)、久慈10人(同1人増)、二戸11人(同1人減)。23年度から新たに18人が現場に出る。近年は年20人ペースで配置が進む。21年度は義務終了の5人中4人が県内にどまり、医師確保は着実に進む。一方、厚生労働省が19年度にまとめた「医師偏在指標」で本県の医師充足度は新潟県と並ぶ全国最下位。県医師確保計画(2023年度)の23年度目標医師数の達成には16年度比359人増が必要とされる。小川理事長は「医師不足

はまだまだ解消されてない。医師の働き方改革により(人繰り)が、苦しむことが想定されるが、学位取得や研修のために猶予期間を確保できるよう、体制を維持することも定着は大切な」と話す。

奨学金制度 23年度は岩手医大地域枠35人、東北大地域枠2人、県医師局一般枠10人、市町村医師修学資金18人があり、交付総額は1440万3050万円。県内の公的医療機関で6、9年の勤務を義務付ける代わりに返還を免除する。22年度入学生から県内の臨床研修2年を含む9、11年の勤務となる。

# 常勤医の年齢推移

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
消化器内科	54	55	42	43	35	36 30
内科			66	67	68	69
循環器内科	58	59	60	61	62	63
外科	58 31	59 32	60 37	61 43	62 47	63 48
整形外科				66	67 33	68
リハビリテーション科	63	64	65	66	67	68
地域医療科		58	59	60		
泌尿器科	63	64	65	66	67	68
眼科					31	32
平均年齢(歳)	54.5	55.9	56.8	59.2	53.9	54.5



**当直医師  
14人(内 応援 9人)**

みんなでももる、  
いわての医療

# 労働基準法

一般 720 時間/年

2024年 4月～

医師 A水準 960 時間

B水準 1,860 時間

C水準 1,860 時間以上

令和6年4月

## 医師の時間外労働規制はじまる

医師不足県である岩手県の医療は、

医師の献身的な長時間労働によって支えられてきた側面があります。

しかし、令和6年4月から、「医師の働き方改革」で医師の時間外労働が制限されます。  
皆さんが医療機関を適切に利用することで、診療への影響をおさえることができます。

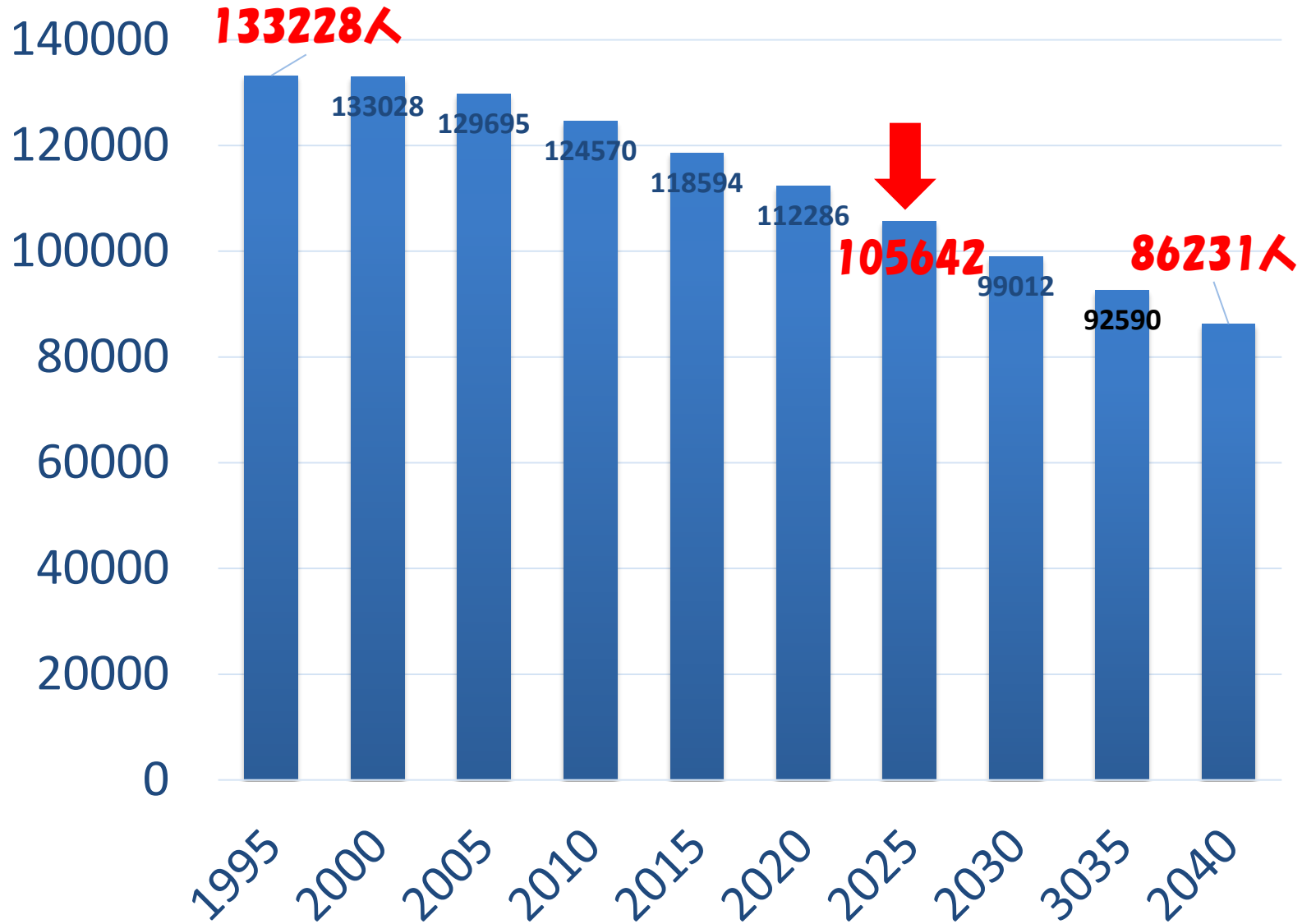
皆さんの行動が、いわての医療を支える力になります。

医師の働き方改革の推進と地域医療を守るネットワークいわて

(事務局：岩手県医師支援推進室)

# 奥州市の総人口数

人

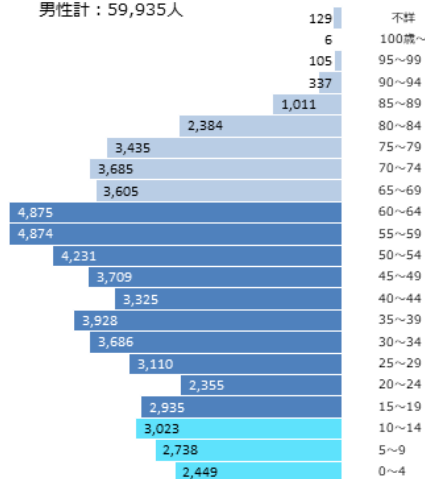


年

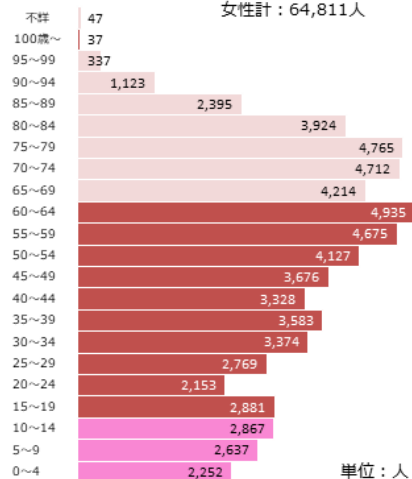
# 奥州市の人口構成

## 2010年

男性計：59,935人



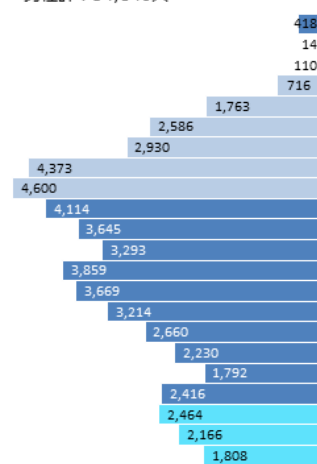
女性計：64,811人



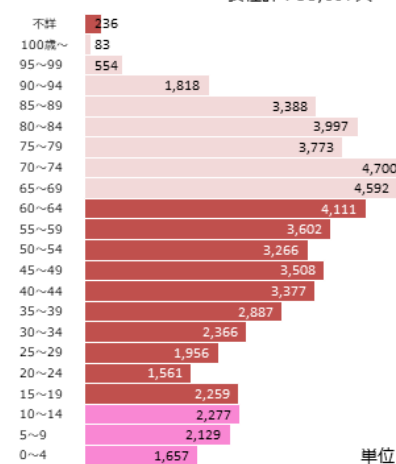
単位：人  
© jp.gdfreak.com

## 2020年

男性計：54,840人



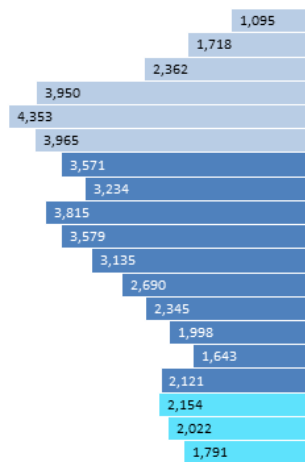
女性計：58,097人



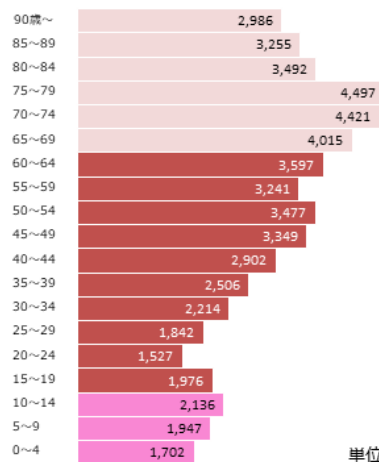
単位：人  
© jp.gdfreak.com

## 2025年(予測)

男性計：51,541人



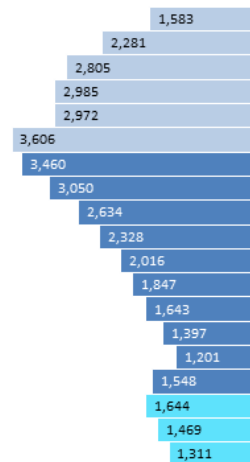
女性計：55,082人



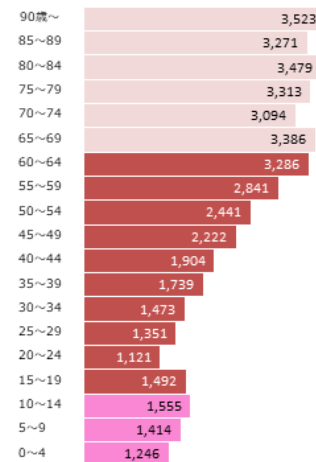
単位：人  
© jp.gdfreak.com

## 2040年(予測)

男性計：41,780人



女性計：44,151人

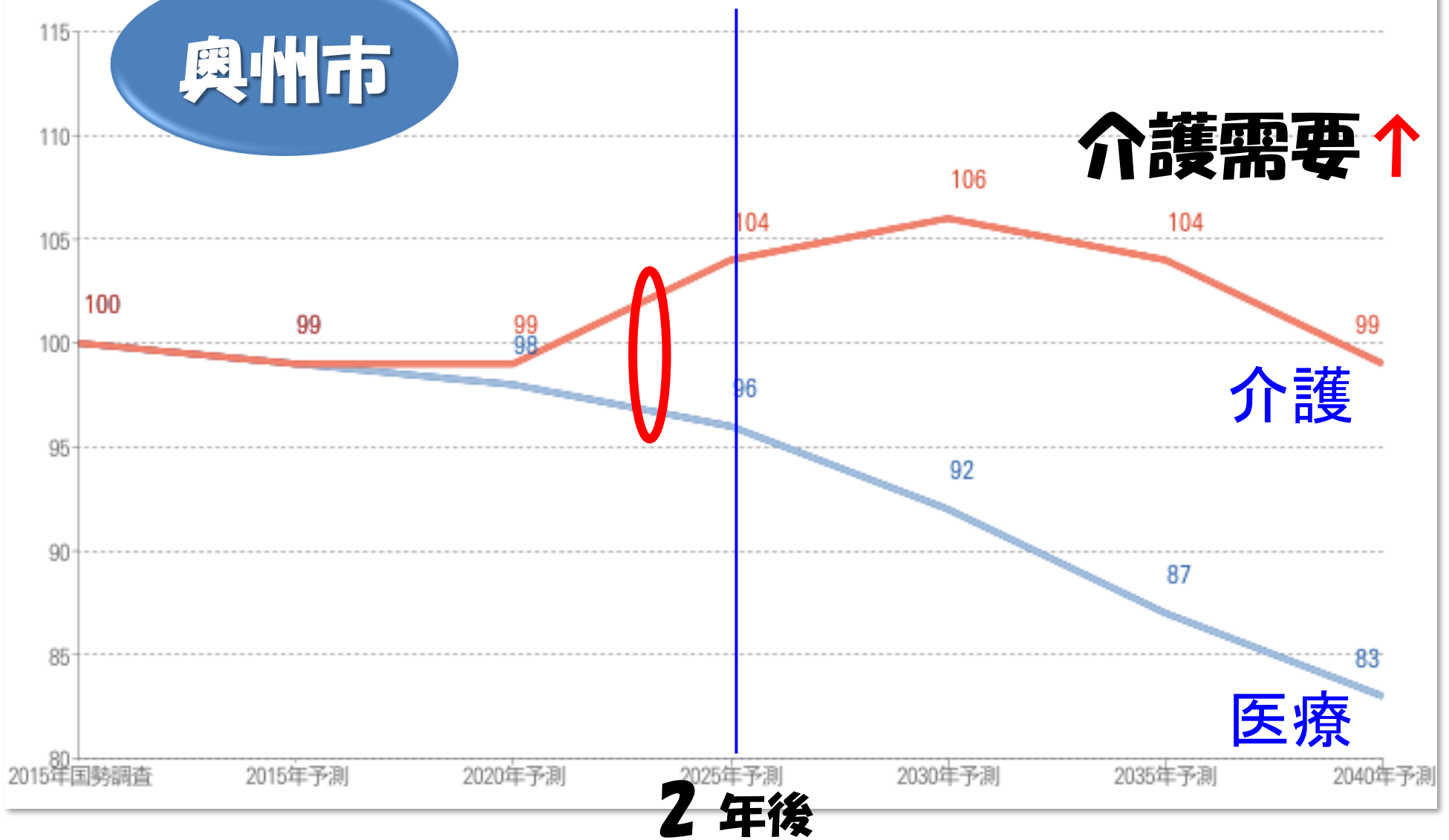


単位：人  
© jp.gdfreak.com



# 医療介護需要予測指数(2015年実績 = 100) (地域医療情報システム: 日本医師会)

奥州市





# 地域医療構想

少子高齢化、疾病構造の変化

→ 医療資源、病床機能の見直し

人口減 → 患者減 → 空床↑  
(病院 → 在宅・施設)

# 胆江圏域の主な病院・診療所

200床以上

県立胆沢病院

# 機能分担

衣川診療所

前沢診療所

金ヶ崎診療所

江刺 4診療所

200床以下

総合水沢病院

県立江刺病院

まごころ病院

聖心病院

美希病院

美山病院(緩和ケア)

療養病床